追手門学院大学 校友会会報

第63号
平成19年(2007年) 9月15日
発行者　〒567－8502
茨木市西安威 2－1－15
追手門学院大学校友会
会　長 平野 昌雄
電 話 072－643－6135
FAX 072－643－6099
©2007 編集責任 蟻柴 潤一

現役学生にも支援

校友会会長　平野 昌雄



今年度の校友会の活動方針としては、校友会館（仮称、以下略）の建設、現役学生への支援を中心に活動していく予定です。

二〇〇四年より計画を進めてまいりました校友会館につきましては、今年十月に着工し、来年五月の竣工予定になっております。

校友会館は、地上一階地下二階建て、六八四平方メートル。一階部分には、展示室を設け、追手門学院大学の歴史に関する史料類を展示する予定です。母校を訪問された校友の皆様には、学生時代を懐かしんでいただき、現役学生の皆様にも、大学の歴史に触れていただければと考えております。

また今年度から現役学生との親睦を図るために、六月には学友会役員との親睦会を開催しました。

これに先立ち、従来の卒業記念品の賞牌に替えて、卒業アルバムを卒業生に贈ることになりました。これは、賞牌のモチーフである大学一号館が取り壊されることと、卒業アルバムが自費購入のために、購入しないから写らないと言う話を聞き、卒業記念品として贈るものです。

これを機に現役学生との交流をより一層深め、これからの母校の発展に寄与することができますよう、積極的な活動をも行っていきたいと考えております。

校友会の皆様方には、引き続きご協力・ご指導、そして積極的な校友会活動への参加をお願い申し上げます。

2007年度 校友会総会及びホームカミング・デーのご案内

開催日 2007年10月28日(日)

【総会】午前11時～
(大学食堂棟3階)

【ホームカミング・デー】正午～
(同1階)

ホームカミング・デー 今年は28日に



将軍山祭のなか日に開催される総会、ホームカミング・デーは今年は十月二十八日（日）に大学食堂で開催されます。

念願の校友会館（仮称）の起工式も終っており、会館の建設を見ていただけます。

今年は第一期生が還暦を迎える年で、校友にも本会にもひとつの節目の年と言えます、特に第一期生のご参加をお願いいたします。

昨年に続いてアメ民ＯＢのライブステージも計画しております。

四十年の年月を飛び越えて下さい。

卒業生教員対象 入試説明会のご案内

ホームカミング・デー会場におきまして教育界でご活躍されている卒業生の皆様を対象に入試説明会を開催することとなりました。

説明会は入試相談を兼ねた個別の説明形式で、本学の入試制度の実状および二〇〇八年度入試の概要等をお話しさせていただきます。また、貴重なご意見等もお聞かせ願えればと存じます。ホームカミング・デーへのご参加と併せまして入試説明会へのご参加をよろしくお願いいたします。

開催日時
十月二十八日（日）
十二時～十三時三十分

開催場所
ホームカミング・デー会場（食堂棟一階に入試説明コーナーを設置）

経営学部長に就任して

経営学部長　福田　得夫



校友会の皆様、二〇〇七年四月に経営学部長に就任しました福田得夫でございます。経営学部は一九九五年に経済学部より分離独立して今年で十三年目、また初代学部長の故飯田修三先生から数えて、私で五代目になるかと思います。私自身も、経営学部発足の年度に教授に昇進して以来、経営学部と共に成長（私自身は老化）してまいりました。経営学部はこの十三年間で大きく変貌しました。発足当時は経営学科一学科でしたが、一九九九年に国際経営学科を増設し二学科体制になり、さらに二〇〇五年には国際経営学科を発展的に解消し、全国的にも珍しいマーケティング学科を開設いたしました。

現在、経営学部は「経営学」、「会計学」、および「（ビジネス）法学」メジャー（主専攻）という、確立した学問分野で構成されている経営学科と、企業家精神に力点がおかれ、また比較的新しい分野である「起業マーケティング」、「情報マーケティング」と「国際マーケティング」メジャーにより構成されるマーケティング学科があります。さらに、経営学分野においては、労働・リスク・市場等の心理など、経営学と心理学の境界領域の重要性が強く認識されつつあることから、二〇〇八年度よりマーケティング学科に「ビジネス心理」メジャーを増設することを決定しました。なお、「ビジネス心理」メジャーを増設するに当たり、本年度はリスクコミュニケーションを専門とする専任教員が先行して着任しており、また、二〇〇八年度には産業組織心理学を専門とする専任教員の採用が決定しています。さらに二〇〇九年度には、一学年三十名の定員増を申請する予定で準備を進めております。

このように、経営学部発足以来、より一層の学部教育の充実を目指して、歴代の学部長をはじめとする関係者は、たゆまぬ努力を重ねてきております。校友会の皆様方の暖かいご支援をお願いします。

心理学部長就任のご挨拶

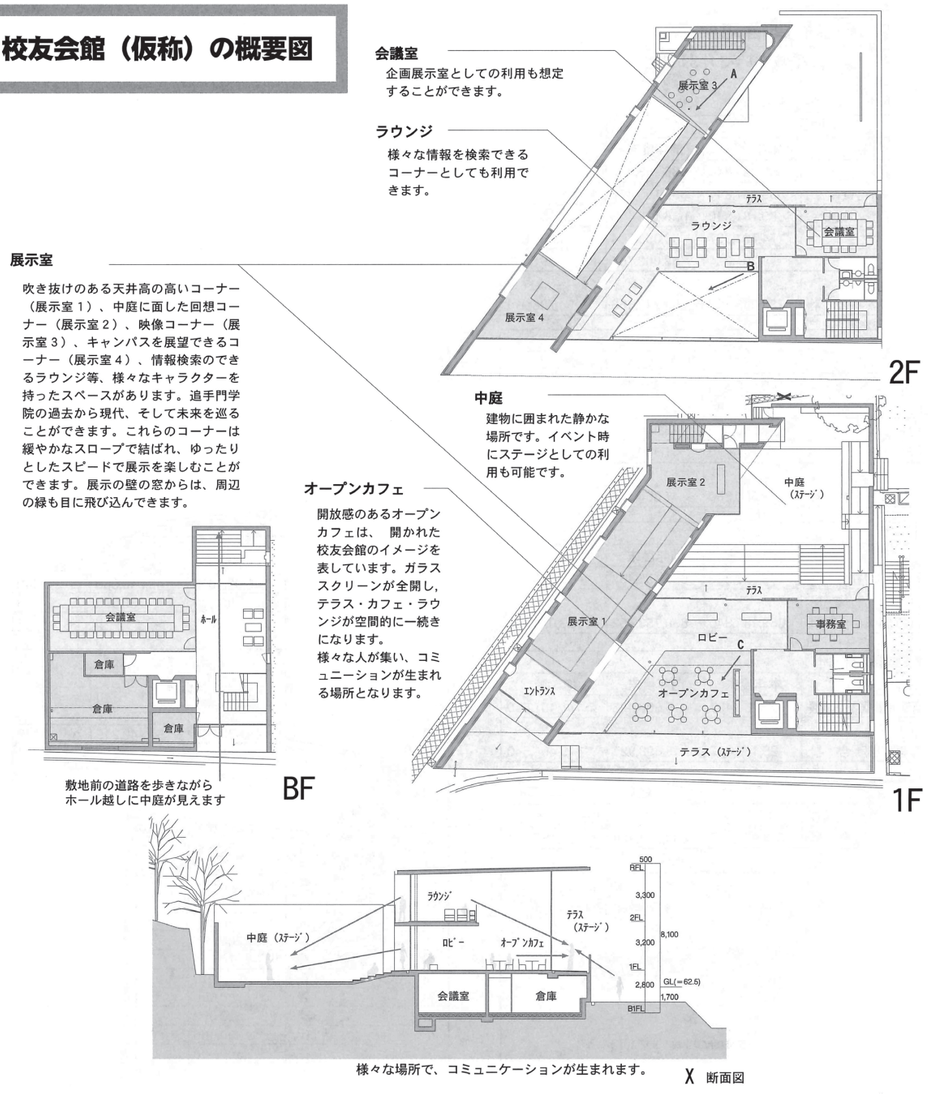
心理学部長　井上　知子



二〇〇七年の四月から心理学部長に任命された井上知子と申します。私が本学に就任したのは一九七〇年四月で、在職していらっしゃる現在の教員の中では在職年数の大変長い教員の一人です。当時は大学院を修了したばかりで、学生さんとあまり歳が違わず、また外見は女子学生さんよりも若く見られるという悲惨な状態で、新入生のクラブ勧誘につきまとわれるといった有様でした。大学構内は、一号館と二号館しかなくて後は広いキャンパスのみ、周りは一面レンゲ畑に取り囲まれて大学のフェンスがないためにどこからでも自由に出入りできる本学は大学紛争のなかで苦労した大学院時代と比べると天国のような状況で、しかも女性の教員は二名（ちなみに体育の平木先生の奥様）のみでしたので、優雅に教員生活を始めました。それから三十有余年私自身も齢を重ねつつ、いろいろな大小の出来事を経験しながら、どんどん変化する本学の物理的、人的様態を見続けながら今にいたりました。過去のどの時代とも比べることができないのが今という時代に存在している現在の大学の状態であると思います。特にこの四月から学部長になって今までとは異なる側面から大学の状態を見て思うことは、もっと本学はいい方向に変われるはずだということです。

人間学部を一九九五年に設立したときにはちょうど学科主任をしていました。日本で三番目にできた「人間学部」という名称は、他の大学の人から評判の良い名称でした。一昨年まで幾年かをかけて心理学のこれからを担う教員が中心になって構想を練り作り上げた心理学部も日本ではまだ数少ない名称です。心理学部についてのみ見るならば、前学部長の提唱したナンバーワン計画は夢ではなくて実現することができうるものであり、教員も学生も力をあわせて努力するに足りる計画であると思います。二年という年月でできることはその基礎作りをはじめるに過ぎないものであると思います。しかし、本学ではおそらく想定外であったオンリーワンの女性学部長という特性を活かして、まずは心理学部のために、ひいては本学のためにより良い人的、物理的環境を作り、私自身が本学で人生のほとんどを送ったことを誇れるように努力したいと思っています。

校友会館（仮称）の概要図



校友会館展示室の展示品がありませんか？

校友会館に大学歴史展示室が設けられます。そこには大きく分けて、追手門学院大学の開学以前と開学後に分けて歴史を追ってそれぞれの時代を展示したいと考えております。そのための展示品を探していますが、まだ足りません。会員各位のご協力をお願いいたします。特に、体育実技の指定ウエア、当時のノート、教科書、ゼミの写真、クラブ活動の写真等を探しています。このような物をお持ちの方がございましたら、大学へご寄贈又は貸し出しを願いいたします。

現在、開館に向けて、史（資）料の発掘調査や天野初代学長を始めとする学院の関係者や卒業生・学生・クラブ活動史等の整理なども進めております。開館時の展示にご期待下さい。

連絡先　校友会事務局
〇七二―六四三―六一三五

平成19年度　収支予算書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで

単位　円

科　目	予　算　額	前年度決算額	差　異
収入の部			
会費	49,600,000	49,040,000	560,000
受取利息	36,000	36,008	△ 8
雑収入	0	0	0
大学周年事業寄付金	0	0	0
宮本輝ミュージアム開設協賛金	0	10,000	△ 10,000
校友会会員名簿関係	0	0	0
義援預り金からの繰入収入	0	1,356,207	△ 1,356,207
財団設立準備基金取崩	200,000,000	0	200,000,000
収入の部　合　計	249,636,000	50,442,215	199,193,785
支出の部			
一般経費			
人件費	0	0	0
会報印刷費	1,500,000	1,412,356	87,644
その他印刷費	300,000	40,000	260,000
通信費	5,800,000	5,082,447	717,553
交通費	20,000	3,320	16,680
消耗品費	20,000	3,478	16,522
会議費	30,000	27,510	2,490
賃借料	65,000	64,470	530
慶弔費	20,000	31,000	△ 11,000
名簿完備費	1,600,000	1,140,740	459,260
事務費	10,000	0	10,000
用品費	0	0	0
雑費	10,000	86,780	△ 76,780
公租公課	20,000	17,200	2,800
卒業記念品代	8,600,000	5,236,200	3,363,800
広報費	400,000	191,875	208,125
謝金	30,000	22,104	7,896
入学記念品代	1,000,000	957,750	42,250
創立40周年記念事業費	0	1,000,000	△ 1,000,000
学友会活動援助費	500,000	0	500,000
大学祭援助費	200,000	200,000	0
支部設立準備費	100,000	0	100,000
支部援助費	200,000	0	200,000
国際交流費	150,000	0	150,000
寄付金	200,200,000	2,435,057	197,764,943
財団設立準備基金繰入	20,000,000	23,028,388	△ 3,028,388
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支出の部　合　計	240,875,000	40,980,675	199,894,325
当年度収支超過額	8,761,000	9,461,540	△ 700,540
前年度繰越収入超過費	25,160,467	15,698,927	9,461,540
翌年度繰越収入超過費	33,921,467	25,160,467	8,761,000

平成18年度　決算書

貸借対照表

平成19年3月31日

校友会　　単位　円

資産の部

科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	659,181,840	636,153,452	23,028,388
その他の固定資産	659,181,840	636,153,452	23,028,388
財団設立準備基金(特定預金)	659,181,840	636,153,452	23,028,388
流動資産	74,761,327	63,063,704	11,697,623
現金預金	74,761,327	63,063,704	11,697,623
資産の部　合　計	733,943,167	699,217,156	34,726,011

負債の部

科　目	本年度末	前年度末	増　減
流動負債	49,600,860	47,364,777	2,236,083
未払金	860	8,570	△ 7,710
前受金	49,600,000	46,000,000	3,600,000
義援預り金	0	1,356,207	△ 1,356,207
負債の部　合　計	49,600,860	47,364,777	2,236,083

基本金の部

科　目	本年度末	前年度末	増　減
財団設立準備基金	659,181,840	636,153,452	23,028,388
基本金の部　合　計	659,181,840	636,153,452	23,028,388

消費収支差額の部

科　目	本年度末	前年度末	増　減
翌年度繰越 消費収入 超過額	25,160,467	15,698,927	9,461,540
消費収支差額の部　合　計	25,160,467	15,698,927	9,461,540

科　目	本年度末	前年度末	増　減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部　合　計	733,943,167	699,217,156	34,726,011

平成19年6月 / 日

追手門学院大学　校友会　平成18年度決算

会計監査報告

公正なる監査の結果、別紙諸計算書は、平成18年4月1日より、

平成19年3月31日までの校友会の保有する財産及び収支の状況

を正しく示しているものと認め、ここにご報告いたします。

追手門学院大学校友会

監事　古橋忠男

監事　青木敬

資金収支計算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

校友会　　単位　円

収入の部

科　目	予　算	決　算	差　異
一般収入	46,000,000	49,040,000	△ 3,040,000
会費収入	46,000,000	49,040,000	△ 3,040,000
寄付金収入	0	10,000	△ 10,000
宮本輝ミュージアム開設協賛金	0	10,000	△ 10,000
資産運用収入	30,000	36,008	△ 6,008
受取利息配当金収入	30,000	36,008	△ 6,008
前受金収入	0	49,600,000	△ 49,600,000
前受金収入	0	49,600,000	△ 49,600,000
その他の収入	0	2,104	△ 2,104
預り金収入	0	2,104	△ 2,104
資金収入調整勘定	0	△ 46,000,000	46,000,000
前期末前受金	0	△ 46,000,000	46,000,000
前年度繰越支払資金	63,063,704	63,063,704	
収入の部　合　計	109,093,704	115,751,816	△ 6,658,122

収支計算書

単位　円

収入の部

科　目	予　算	決　算	差　異
会費	46,000,000	49,040,000	△ 3,040,000
受取利息	30,000	36,008	△ 6,008
雑収入	0	0	0
大学周年事業寄付金	0	0	0
宮本輝ミュージアム開設協賛金	0	10,000	△ 10,000
校友会会員名簿関係	0	0	0
義援預り金からの繰入収入	0	1,356,207	△ 1,356,207
収入の部　合　計	46,030,000	50,442,215	△ 4,412,215
支出の部			
一般経費			
会報印刷費	1,500,000	1,412,356	87,644
その他印刷費	350,000	40,000	310,000
通信費	5,800,000	5,082,447	717,553
交通費	30,000	3,320	26,680
消耗品費	25,000	3,478	21,522
会議費	30,000	27,510	2,490
賃借料	50,000	64,470	△ 14,470
慶弔費	20,000	31,000	△ 11,000
名簿完備費	1,700,000	1,140,740	559,260
事務費	10,000	0	10,000
用品費	0	0	0
雑費	10,000	86,780	△ 76,780
公租公課	20,000	17,200	2,800
卒業記念品代	8,600,000	5,236,200	3,363,800
広報費	500,000	191,875	308,125
謝金	0	22,104	△ 22,104
入学記念品代	1,000,000	957,750	42,250
創立40周年記念事業費	1,000,000	1,000,000	0
学友会活動援助費	500,000	0	500,000
大学祭援助費	200,000	200,000	0
大学祭行事参加費	0	0	0
支部設立準備費	100,000	0	100,000
支部援助費	200,000	0	200,000
国際交流費	150,000	0	150,000
寄付金	1,556,207	2,435,057	△ 878,850
財団設立準備基金繰入	23,000,000	23,028,388	△ 28,388
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支出の部　合　計	46,451,207	40,980,675	5,470,532
当年度収支超過額	△ 421,207	9,461,540	△ 9,882,747
前年度繰越支出超過費	15,698,927	15,698,927	0
翌年度繰越収入超過費	15,277,720	25,160,467	△ 9,882,747

活躍する校友(3)

アップリカ葛西㈱ 代表取締役社長
葛西 得男（第四期生・経済）



校友会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。追手門学院が二〇〇八年に創立一二〇周年を迎えられますことを卒業生として心よりお祝い申し上げると共に、また、こうして会報に寄稿できますことを感謝申し上げます。

私は育児製品を開発・製造する会社を経営しておりますが、育児研究を重ねる中で三歳までの育児の重要性をとても痛感しています。三歳までの時期に子どもの「あたたかい心」を育て、周囲の人々の「あたたかい心」に触れることによって、子供の土台の部分が育ちます。「あたたかい心」とは何か？私自身、この答えは他人に対する思いやりの心なのではないかと思っています。私たち人間には他人の気持ちを理解する能力があります。心理学ではこの能力を「心の理論」と呼ぶようです。これは人など一部の動物にしかなく、人が社会生活を円滑に行うためには必ず必要です。赤ちゃんは発達の過程の中でこの「心の理論」を身につけていきます。赤ちゃんの周りの人が「あたたかい心」をもっていれば、赤ちゃんは「人は信頼できる」ということを学ぶことができます。

昨今の悪質な少年事件の多発や虐待・自殺率の増加は、社会不安を象徴するものであり、子育て環境はかつてないほどに困難な状況にあります。優しさや愛を受けずに育った子どもが親になって、また同じような子育てをする悪循環を断ち切らなければなりません。すべての責任を母親だけに押し付けるような現状では、現代の子育て環境は解決できません。父親も含めた社会全体による子育てを考えていきたいものです。

同窓の集い

心理学科

今年度もホームカミング・デーに合わせて心理学科卒業生の集いを開催します。

参加希望の人は十月十五日までにメールタイトルを同窓会参加として次のアドレスへご連絡ください。

同学年でお誘い合わせて多数ご参加下さいますようお願いします。

toinoue@haruka.otemon.ac.jp

＊　＊　＊

なければならない時代が今来ていることを、子どもに関わる業界にいる人間として切実に感じます。

追手門学院大学には、経済系、経営系をはじめ、多くの学部があります。それぞれの専門分野において、知識と共に「心を育てる」「人間を育てる」教育に、尚一層、ご尽力いただき、多くの優秀な後輩たちが、二十一世紀の豊かな社会を支える礎になってくれることを心より願っています。

社会学科

社会学科卒業生のみなさん、今年もホームカミング・デーの日に同窓会ソキウスの第二回総会・懇親会を開催します。

母校も中央棟と六号館が本年三月から供用され、あの一号館も建替え工事中、校友会館も建設に入っています。

新しいキャンパスをご覧頂くとともに、旧交を温め合うため、お誘い合わせの上お集まりください。

今年も卒論を返却しますので、昨年受け取られていない卒業生は今年がラストチャンスです。ぜひお受け取りください。

杉本先生にもご参加頂きます。

〈昨年の様子〉



心理学科



社会学科

文学部社会学科・人間学部社会学科卒業生の皆様へ
～第２回 社会学部支援同窓会ソキウス総会のおしらせ～

開催日時　2007年10月28日(日)　13:30頃より（ホームカミング・デー終了後）
開催場所　大学食堂3F　スタッフルーム
会　　費　￥2，０００
連 絡 先　shinno@res.otemon.ac.jp（ご参加頂ける方はご連絡ください）

※　ソキウスブログに卒論返却予定分の掲載をしますので、ご希望の方は、ブログコメントでお知らせください。
http://space.geocities.yahoo.co.jp/gl/socius_ogu2006

社会学部支援同窓会ソキウス会長　新野 三四子

恩師を訪ねて(3)

「書難」避け難し

名誉教授　宇田 正



人の一生にはいろいろな災難がふりかかるものだ。火難・水難・剣難・女難・盗難等々実にさまざまあるが、私の一生の内では「書難」というものが、折にふれ立ちはだかり、しばしば私を悩ませるのである。

本学の開学以来の最古参教員として実に四〇年間勤め上げ、昨年春に退職した私であるが、本当は開学に先立つ設立準備段階から「特命で」大手前の学院本部に一年近く通って実務的なお手伝いをしたので、気持の上では四〇年以上在職したという感慨がある。

その時、私がもっぱら担当したのは、大学設置認可要件を満たす作業の一環として付属図書館における経済学関係の専門図書の選定・蒐書――要するに図書館創設の最前線の仕事だった。生来の本好きとはいえ、元々文学部出身で経済学には疎遠であった私としては経済学の専門文献の選定や体系的な蒐書にしばしば戸惑い、心労も多かったが、とりあえず経済学史の泥縄的学習をしてどうにかとりつくろい、いよいよ文部省から派遣された大学設置審議会委員の実地検分という難関に臨んだ。そして、委員の服部英太郎博士からの「経済理論部門でローザンヌ学派の書目を補強するように」とのコメント付きながらどうにかパスしたものの、まさにわが人生最初の書難であった。

さて、無事開学した本学での私の担当課目は「経済史」であり、文字通り人間社会における経済活動の発足からその論理的展開を「史」＝つまり言葉で考え文章を組み立てるため、多くの書物をひもとき、まさぐり、さらにみずから書物にまとめ上げる努力を、講義や演習を通して学生に伝えるのに日々苦労を重ねたものだった。しかしこれは自分が進んで選んだ天職なので、専門文献の読解に苦しみつつも書難とは感じなかった。

問題は、そうした私の認識とは別に、私が日々、知的好奇心の赴くままに手当たりしだい研究費や私費で購い集めた「物」としての書物が、自分の日常的身辺、とくに大学の研究室をひしひしと埋め始めたのである。

時たま、訪ねてくる来客や学生は室内にそそり立つ書棚を仰いで、「この本、みな読んだのですか？」と「この本、素朴に驚いてくれるのだが、私のようなアナログ型思考の研究者は、一生に一度でも特定の一行、いや一語の意味を探るだけの目的で、ぶ厚い書物を数多く、つねに座右、机辺に配備しているのだ。

役職嫌いの私もさすがには嬉しくお引図書館長だけは受けして、時々書庫の奥を徘徊したものだが、いつも電動式書架のボタン操作をしくじり、みずからささやかな書難を招くこともあった。

後年、学内経理システムの改正で、それまでは備品として研究費で購入していた書物がすべて消耗品として取扱われることとなり、書物フェチの私には「福音」と思われた。ところがやがて定年退職の日を目前にして、研究室に山積する消耗図書をすべて自分で処理せねばならなくなり、私のように書物の廃棄をいさぎよしとしない場合はみずから抱え込み引き取ることを迫られるという次第で、ここで第二の書難に見舞われたのである。

私は一世一代の熟慮のすえ、愛すべき私の知的分身である書物二千冊余を出身大学の経済史資料室文庫に寄贈し、百冊余は学内・外の知人に譲り受けてもらい、あとは自家の蔵書に移したが、その整理・梱包・宅送に手間取り、結局研究室からの退去が退職の翌日つまり新学年度にずれ込み、次に入室される新任の先生や管財課の職員にご迷惑をかけてしまった。

それから一年、私もそろそろ「終の栖（ついのすみか）」に引越すことになり、新居はこれまでより少々狭くなるため、またぞろ蔵書の選別・整理を迫られ、目下この月末を期限に第三の書難が粛々と進行中であるが、さて第四の書難は？

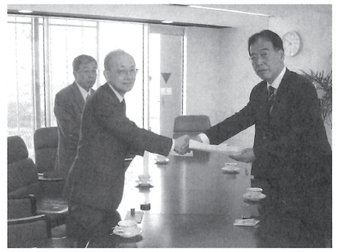
文学部心理学科・人間学部心理学科卒業生の皆様へ
～第２回 心理学科卒業生の集いのおしらせ～

開催日時　2007年10月28日(日)　14:00～15:30を予定
開催場所　２３０５教室（参加者の人数によって変更することがあります）
連 絡 先　toinoue@haruka.otemon.ac.jp

※　参加予定者は、10月15日までに、
メールのタイトルを同窓会参加とし、氏名（旧姓）、卒業年度、
ゼミ名をご連絡ください。

心理学部心理学科　井上 知子

校友会館の覚書調印



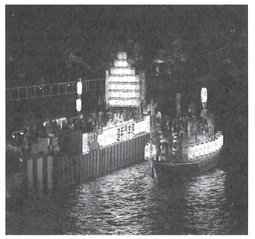
六月二十一日、追手門学院大学校友会館（仮称）に係る覚書調印式が行われました。

覚書は校友会館（同）の寄附・建設・竣工時の維持管理に係る覚書で、大学からは鈴木学長、胸永法人事務局長、校友会からは平野会長、大橋副会長、蟻柴副会長が出席し、なごやかなうちに覚書に調印し、覚書が締結されました。

予定地のボイラー室は取り壊しが始められており、九月二十九日に起工式を執り行う予定になっている。

学友会と親睦会





六月三十日、大学食堂において現役学友会との親睦会を開催しました。

かねてより現役に支援をと機会を練っていたのが実現したもので、学友会本部委員長をはじめ各団体代表二十六名が参加し、今後の支援など話し合った。

大学からは鈴木学長、地代学生部長、胸永法人事務局長が参加された。

今年も奉拝船

学問の神様、天満宮の祭りに今年も、追手門学院が奉拝船を出した。校友会も平野会長らが乗船し、学院をPRした。

追手門学院創立一二〇周年記念事業「総合募金」のお願い

追手門学院大学校友会会員の皆様方には、平素より本学院・本大学に対しご支援、ご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

追手門学院は来年二〇〇八年に、創立一二〇周年を迎えます。学院挙げて記念事業を推進し、これを契機として更なる発展を目指しております。

大学におきましては、この三月に地下二階・地上十一階の中央棟、四つの大中教室の六号館が竣工し、これら施設は教育環境の充実におおいに資するものでございます。また学生サービス部門を集中した新・一号館の建設も今秋には始まる予定となっております。

これら記念事業につきまして、校友会会員の皆様方に募金のご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

追手門学院常務理事
中嶋昌彌

編集後記

一期生が還暦!!十年ひと昔と言うと、四昔。科学技術は警異的に進歩したが、見渡せば当時のファッションが流行している。

この四昔、早いとみるか遅いとみるか。（潤）

追手門学院創立120周年記念
追手門学院大学　経済学部　≪秋季公開講座≫

「少子化とヒューマンエコノミー」

追手門学院大学経済学部では、多くの人々が関心を寄せる「少子化問題」をテーマとして、３回連続の公開講座を開催します。少子化問題の背景から現代を読み解き、私たちの未来への課題を探ります。事前の申し込みは不要です。関心のある方なら、どなたでも参加自由です。

第１回　10月６日（土）
関西大学政策創造学部　白石 真澄 教授
演題「少子高齢化と地域システム」

第２回　10月13日（土）
神戸大学大学院経済学研究科　小塩 隆士 教授
演題「少子化対策の意義と課題」

第３回　10月20日（土）
追手門学院大学経済学部　村田 美希 講師
演題「少子・人口減少社会を考える」

【時間】13:30～15:00
【場所】追手門学院大学　６号館（優駿ホール）
【問合わせ】追手門学院大学経済学部
「秋季公開講座」係
TEL.072－641－9616
FAX.072－643－9432

追手門学院大学
校友会会報
SINCE 1966 OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

第64号
平成20年(2008年)３月19日
発行者　〒567－8502
茨木市西安威 2－1－15
追手門学院大学校友会
会　長 平野 昌雄
電 話 072－643－6135
FAX 072－643－6099
©2007 編集責任 蟻柴 潤一

将軍山会館に決定!!

かねてより計画・建設中の念願の「校友会館」の正式名称が「将軍山会館」と、このほど決定しました。

昨年十月より着工しました校友会館（仮称）は、名称が「将軍山会館」に決定しました。「将軍山」とは、キャンパスの南端（現・追手門学院中学高等学校グラウンドの南）に、緑豊かな小高い丘の中に藤原鎌足公の古墳があり、昔から「将軍山」と呼ばれてきました。

本会もこの呼び名にちなんで「追手門学院大学同窓会将軍山会」としていましたが、その後、名称を「追手門学院大学校友会」と改め、「将軍山会」の愛稱は通称とすることにしてきました。多くの卒業生のみなさまに親しく、また古くからの会員のみなさまには懐かしく「会館」に訪れていただきたく、「将軍山会館」と名付けられました。



建設の状況につきまして は、六月二十八日の竣工を目指し、順調に進んでおります。現在は最上部までのコンクリート打設が終わり、内部設備の施工が進んでおります。仮囲いがとれて、建物の全容が見えてくるのが、ゴールデンウィークの頃となっております。

H・Cデー今年も学祭中に開催



さる、二〇〇七年十月二十八日に恒例のホームカミング・デーが開催された。

当日は天候に恵まれ、四八〇名を超す校友が集い、昨年に続くOBのライブステージがあり、同期や、学年を超えての交誼の輪が広がり、話に華を咲かせた。

今年、学内は大きく変ります。年に一度の開催ですが、本年も母校に足をお運びいただき、変貌を遂げる母校をその眼でご確認いただければと思っています。

オープンキャンパス開催予定

今年も開催されるオープンキャンパスの日程が、次のとおり決まりました。

リニューアルしたキャンパスにぜひご来校下さい。

六月二十二日（火）
七月二十日（火）
八月二日（土）
八月三十日（土）
九月二十一日（日）
十月十二日（日）

＊時間などの詳細はホームページまたは電話で確認して下さい。

なお、十月十二日は入試直前相談会です。

訃報

「英語の樋口」こと樋口靖先生が、昨十九年十二月十二日に永眠されました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。　合掌

【四面関連あり】

社会学部長就任のご挨拶

社会学部長　平木　宏児

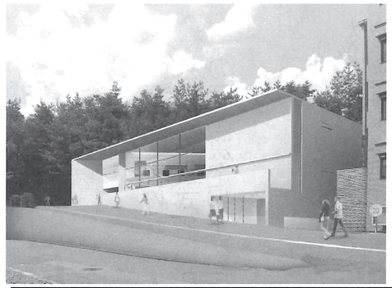


卒業生の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお伺い申し上げます。

皆様方ご承知の通り、本学は一九六六年に開学、昨年大学創立四〇周年を迎えました。その間、学生はもとより卒業生の皆々様のお力添えがあっての追手門学院大学と認識しています。また、本年は学院創立一二〇周年の年になります。十一月七日（金）には学院一堂に会しての記念式典を計画しておりますので、卒業生皆様のご参加をお待ちいたしております。

卒業生総数も約四万名となり開学当初からお世話になっている私としましては感無量で、近年は大学祭中のホームカミング・デーで一人一人の方にお目にかかれるのも楽しみの一つです。大学では現在、二号館横に「将軍山会館」が建築中ですが、この建物が完成しましたら卒業生の皆様がもっと来学していただけるものと期待しています。

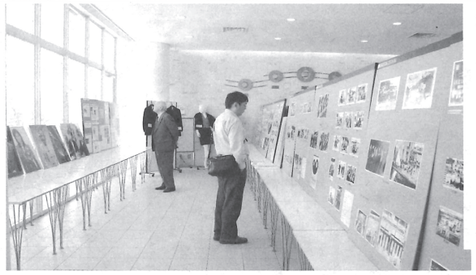
年月の経つのは早いもので、将軍山会館の起工式の際、一期生のある方より、「一期生の我々は来年還暦になる」と聞かされ、大学が永年の歴史を刻んできたのだと改めて思い知らされますと共に、大学と校友会がまた新しい歴史を築いていくことに力を注ぎたいと思います。



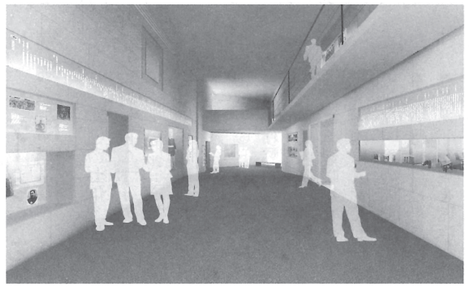
追手門学院の「思い出」が眠っていませんか？

追手門学院は今年、創立一二〇周年を迎えます。学院では、学校史整備委員会が発足し、これを機に新たな学院史資料を内外に渡って収集しております。その為に、卒業生および旧教職員の方々に広く呼びかけを行っております。特に、大学の将軍山会館では追大や学院の歴史展示室が設けられます。

皆様のご家庭で眠っている学院に関する史資料がございましたらご協力をお願いいたします。また、順次各学校園におきましても展示スペースが設けられます。



ホームカミング・デー展示



将軍山会館展示室（イメージ図）

・収集する史資料（幼稚園、小学校、中高等学校、大学に関する物）教科書、配布プリント、ノート、クラブ活動記録、受験票、合格通知、制服、クラブのユニホーム、指定体操服、ゼミ・修学旅行等の写真等

ご寄贈・ご貸与いただける資料は、歴史を物語る大切な史資料として末永く保存展示させていただきます。また、皆様のなかには、二代、三代にわたり追手門学院に在籍いただいた方、父母の代、祖父母の代、ご親戚の方々も多数おられると思います。関係者がおられましたらお声をかけていただければ幸いです。

問い合わせ先
学校法人　追手門学院
学院長室（宮本）
〒五六七―〇〇〇八
大阪府茨木市西安威二―一―十五
電話
〇七二―六四一―七四四〇

同窓のつどい

心理学科同窓会報告

昨年度から、ホームカミング・デーにあわせて、心理学科独自の同窓会の集まりを始めております。本年度も、昨年度同様の形式で二〇〇七年十月二十八日に、全学でのホームカミング・デーの催しの後、開学当初からの二号館の教室に卒業生にご参集いただきました。

井上知子学部長のあいさつに引き続き、出席教員の自己紹介と近況報告、卒業生の近況報告をおこなっております。また、小花和名誉教授を交えての懇談に、旧交を温めることができました。今回は、二期生で連絡のついた方々がグループで参加してくださいました。丁度、一号館取り壊しの時期に重なり、キャンパスの変貌ぶりに、参加者も時の流れを改めて感じておられたようです。

参加卒業生も四十名以上に増え、学科ではさらに連絡網を整備していきたいと考えております。また、教員の入れ替わりも多くなり、初期の卒業生に対応できる教員も減り始めておりますから、今のうちに同窓会としての体制を整える必要があると痛感しております。校友会館の建設も一つの契機になると考えられますから、学科としてさらに努力していきたいと考えます。

開学以来の卒業生も多数にのぼり、多くの方々が社会の諸分野で活躍されております。このことが即ち学科の存在意義の具体的あらわれであるといえるでしょう。在学生やこれからの入学生のよき目標としていくためにも、同窓会活動をさらに発展させていく必要があります。



心理学科



社会学科

社会学科同窓会報告

二〇〇七年十月二十八日（日）ホームカミング・デーの日に、第二回総会が開催され、還暦を迎えた一期生をはじめ、総勢五十六名の卒業生が母校に集いました。昨年同様、食堂棟三階のスタッフルームにおいて、ホームカミング・デーのパーティー終了後、午後一時半より総会が開かれ、昨年の事業報告と決算および、二〇〇七年度の事業計画と予算が承認されました。

総会の後、ご多用の中をご参加くださった、中嶋昌彌法人常務理事（元社会学部教授）、平木宏児社会学部長、矢谷慈國教授、吉田正教授（ソキウス会親）からご挨拶をいただき、現在の大学の様子などを聞かせていただきました。

そして、久しぶりに母校へ戻られた杉本一郎先生から、ご自身の近況のお話と心温まるメッセージを頂戴しました。

続いて、矢谷先生に『私にとって、社会学は、どんな学問か』と題するミニ講義をしていただきました。一期生から、マスコミをにぎわしている伊勢の銘菓『赤福』や、ボクシングの『亀田親子』に対する社会学的考察の質問が出るなどして盛り上がり、卒業生に、懐かしい社会学科教室の雰囲気を味わう時間を与えてくださいました。

終了後、それぞれのゼミに分かれて二次会が開催され、時の経つのを忘れて、遅くまで語り合われました。

今年ご参加いただけなかった社会学科卒業生の皆さん、来年の総会には是非ご参加ください。

ソキウス会員の皆さんには、二〇〇八年度「さかさま大学」の実施要項他、母校の記事を載せたソキウスニュース Vol.6 が、二月中旬に発行されています。

また、日々発信しているソキウスブログもぜひご覧下さい。

http://space.geocities.yahoo.co.jp/gl/socius_ogu2006

樋口靖先生の死を惜しむ



平成十九年十二月十二日に惜しまれつつ永眠された。樋口先生との出会いは、私が大学に入学した昭和四十六年の四月のことでした。授業は「英語Ⅰ－A」で、先生は大変若くて、お兄さんのようにクラスのみんなから慕われておられました。当時から先生の発音は綺麗で、さすがに大学の先生だと痛烈に思ったことを今でも思い出します。また、熱血先生で、夏休みなどは有志を集めて補習をして、集中的に英語を勉強させていただきました。大変感謝しております。

縁があって、母校に勤めさせていただいた最初の部署が学生課でありました。ここが交換留学生制度の担当部署でした関係で、先生とはよく留学生と私とで、松下電器産業等の会社を一緒に訪問させていただきました。その時には、よく説明をさせられました。手振りで、汗をかきながら行ったことが懐かしい思い出の一コマとなっています。

先生は、追手門学院大学の生え抜きの教員として信望が厚く、大学運営・教育研究の各分野で幅広く活躍され、要職を歴任されました。昭和六十三年四月には学生部長、大学評議員に、平成五年十一月には教育研究所長に就任されました。その後、平成九年四月には文学部長・学校法人追手門学院理事に就任し、大学行政・法人運営にも尽力されました。平成十五年五月には、学院長室長に就任し、学院の教学支援と広報活動の指針を明示されました。また、課外活動においても、空手道部、少林寺拳法部の顧問に就任し、長きにわたって指導をされておられました。

お人柄もあり、葬儀には卒業生達が弔問に訪れてくれました。最後まで、先生の人望の厚さを痛感させられました。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。　合掌

吉田浩幸（第六期生）

活躍する校友(4)

株式会社フジオフードシステム　代表取締役社長　藤尾　正弘（第八期生）



私は大衆というカテゴリーの中で外食産業を営んでおります。その中で社員やパートナー達（我々はパートアルバイトの方々を経営に参画していただくという思いを込めてパートナーと呼んでおります）に常に説いていることがあります。それは「何のために食べるのか？」そして「なぜ働くのか？」「なぜ生きるのか？」ということです。

「何のために食べるのか？」というと食を通じて様々な生命からエネルギーを吸収する。そしてそのエネルギーを世の人の為に使い役立てることです。食べてそのエネルギーを使う、また食べる、そして使う。この連鎖が幸せを生み出し、幸せの渦を作っていくのだと思います。そして、この渦に沢山の人たちを巻き込むことが大切だと思います。

私達は、我々の店舗・食事の渦に皆さんを巻き込むこと。それが我々のゴールの一つでもあるのです。そして「なぜ働くのか？」「なぜ生きるのか？」という問いも又同じだと思います。誰かの役にたち喜んでいただく、そこに働く価値、活きる意義があるのだと思います。

去年も三万人以上もの人が自ら命を絶ちました。この数値は一九九八年から続いているとのことです。思い起こせば貧しかったかもしれませんが励まし合って、かばいあい、生きていた時代は今から比べればごく小数だった。そして、その時代は、人の温もり、人の振れ合いがあったからこそ生きてこれたのだと思います。そんな中、これからも一店舗一店舗手作りで、人の温もり、人の触合いを大切にして店作りを行っていきたいと思います。

私が考えうるビジネスのゴールはたくさんの人に喜んでいただき、たくさんの人に役立つことです。大衆というカテゴリーの中で、日本一の温かい、お店を作り出して、店舗数、売上高は、もちろん、人に対する思いやりも日本一になることです。それが、私のゴールです。

企業の価値は「存続と成長」にあると言われます。その為には理念の共有が大切になると思っております。追手門学院大学が一二〇年という長い歴史を刻む中には様々な苦難があったことと思われます。この長い歴史を刻むことを可能にしたのは、一貫した教育理念を掲げ、多くの方にその理念を共有する中で、優秀な人財を数多く輩出してきたからに他なりません。

私も少しでも長い歴史を刻めるよう理念を心に刻んで参りたいと思います。最後になりましたが、この度はこのような機会を頂き誠にありがとうございました。また皆様のご健勝を心よりお祈りしております。

天野利武初代学長との思い出(3)

学生時代の思い出と天野先生

立花　元彦（第一期生）



追手門学院大学の卒業生の皆様、学院関係者の皆様、校友会四〇周年おめでとう御座います。大学創設当時の初代天野学長との思い出を投稿せよとの事でＰＣをたたいております。

マレーシア、タイランドに一九七五年から現在に至るまで住んでおります関係で校友会活動には全く参加する機会がありません。その私に投稿依頼が来たのは、なぜなのでしょうか？噂によりますと初代学友会の委員長だったからだとか！

創設当時の学院は、学生も一年生だけで人数も少なく、また、教授、助教授、講師、助手の先生方も若く、先生と学生といった関係ではなく兄弟のような関係でお付き合いを頂きました。初代の天野学長は、少しお年が離れていましたが、先輩が無く大学生活不慣れな一期生の私達の無茶なお願い、相談にも快くお時間を割いて頂きました。

一九六六年の秋の事でした、誰からともなく文化祭（将軍山祭の前に一回開催）を開催したいと言い出し、学長と予算のお話に伺った時、快く三十万円を出して頂きました。当然少ない予算ですが、当時の学生はやる気満々でその少ない予算を各部に公平に配分し足らない部分は、各人が小遣いの中から出し、頭と体を使って成功させました。学長は、その成功に我々と共に大変喜んで頂きました。学長は、いつも学長室の中に居られるのではなく学院内を巡回されて我々に気軽に声を掛けておられました。

一九六〇年代は学生運動が盛んな時期、学院内にはそのような動きは全く無く逆に、他校より活動家が扇動に来るとの噂が学院内に広まり、体育会系の部が主導権を取り学生が体育館内に寝泊りをして学院を守りました。その時も学長は、我々の体育館内に寝泊りする希望を快く聞き入れて下さいました。

各学部の学部長は、目崎経済学部長、平沢文学部長と当時の第一線でご活躍の先生を配し、大学の中でも創設時からコンピューターの導入をした大学は、多くは無かったと記憶しています。

ユニークな先生では、英語の担当がマクルーハンで有名な竹村健一氏、文学部にはノーベル文学賞受賞のタゴール氏の親族のＳ・Ｋタゴール先生がおられ、いつも外車を運転されていました。これも天野学長の教育に対する考え方、人脈の豊富な所と後日聞きました。

紙面が許せば幾らでも書く事がありますが、それも許されないようです。最後になりますが、校友会の今後のご発展と会員の皆様方のご健康をお祈り申し上げます。

天野利武初代学長との思い出(4)

天野利武学長公式訪印回想

第五回交換留学生　潮　俊次（第八期生）

ブーゲンビリアの赤い花が咲くグジャラート大学学長の公邸の庭は、鳥がさえずりリスが樹間を往来し、まことに穏やかな雰囲気に包まれていた。

一九七四年十二月下旬の夕刻、天野利武追手門学院大学学長の交換留学制度制定五周年の公式訪問レセプションがガーデンパーティーの形式で開催された。

主催者側の数名の訪印歓迎スピーチに続き演台に立たれた天野先生は流暢な英語で過去五年間の留学生交換に関する互いの労をねぎらい感謝の念を述べられた。

戦後およそ三十年がたっていたが天野学長はこの縁に鑑み、来る二十一世紀に向けて**いける架け橋**（留学生）を育もうと締めくくるのである。

三十余年たった現在、天野先生の期待に沿えず架け橋の任を果たしていない私だが、インドの経済急成長に驚きをもって眺める今の日本の風潮（二桁掛け算九九教育の特集等）はどこか滑稽に映る。〝**舐めたらアカン**〟と言いたい。識字率は六〇パーセント、インフラ整備の遅れなど後進国呼ばわりするが、大学学士数・海外留学生数などマンパワーの育成は当時から大変盛んであった。その成果が今現れ始めているだけであり、今後も持続し、更に進化すると見ている。

天野先生はこれら全ての流れを看破されてスピーチされたように想われる。



「追手門学院大学サテライトオフィス大手前」が、三月六日プレオープン

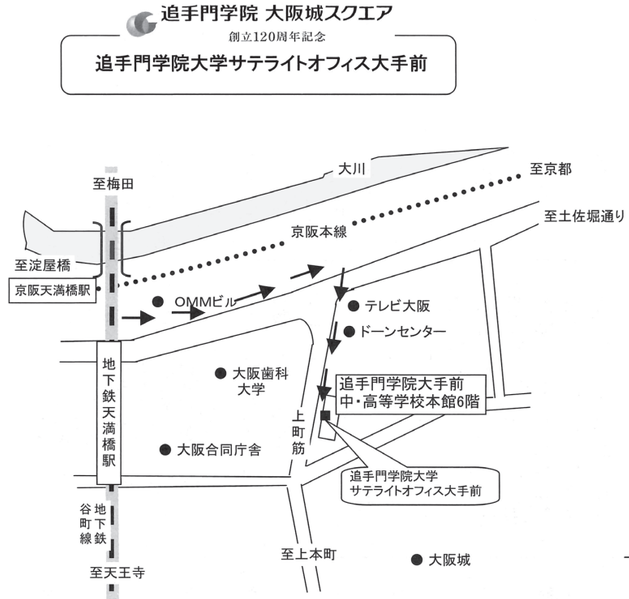
追手門学院創立百二十周年記念事業の一環として、本年三月六日より追手門学院の発祥の地である大手前キャンパスの一角にサテライトオフィス大手前を開設いたしました。

この施設は、卒業生に対する就業支援や大阪市内で就職活動を行う学生を支援する拠点として、新たなサービスを展開します。

追手門学院大学の在学生および卒業生（卒業後三年以内）であれば、①専門の相談員による就職相談、②企業情報や採用情報の提供、③就職先の紹介・斡旋、④各種証明書の交付などのサービスを受けることができます。

大阪城を一望できるオフィスですので、お気軽にお立ち寄りください。

詳しい内容は、大学のホームページ（四月以降）に掲載いたします。



追手門学院大学サテライトオフィス大手前
〒540-0008
大阪市中央区大手前1丁目3番20号
追手門学院大手前中・高等学校本館6階　大阪城スクエア内
TEL06-6942-7700　FAX06-6942-7730
E-mail　Satellite@office.otemon.ac.jp
最寄り駅：地下鉄谷町線天満橋駅　1番出口
京阪電車天満橋駅　東改札出口
OMMビル方面徒歩7分

追手門学院大学附属図書館「オーストラリア・ライブラリー」開設

追手門学院大学附属図書館「オーストラリア・ライブラリー」は、日本国内唯一の、オーストラリア専門の図書室です。

二〇〇七年度にオーストラリア政府から寄贈を受けた「豪日交流基金寄贈書」（内訳　洋書　約一〇，〇〇〇冊、和書　約三，〇〇〇冊、視聴覚資料ほか　約二，〇〇〇点）を中核に、本学オーストラリア研究所が収集してきた蔵書約五，〇〇〇冊を加えて、二〇〇七年十月、附属図書館内に開設しました。「オーストラリア・ライブラリー」には、これらオーストラリア関係図書等約二〇，〇〇〇冊のうち約一五，〇〇〇冊を閲覧に供しています。

二〇〇八年二月十四日には、「オーストラリア・ライブラリー」を一般の方にも公開し、広くサービスの提供に努めています。所蔵資料は、本学附属図書館オンライン蔵書目録（OPAC）で検索できます。OPACは図書館ホームページをとおしてインターネットにも公開しています。



写真は二〇〇七年十月十四日，目録贈呈式でマレ・マクレーン豪大使と鈴木学長。

支部報告

九州支部



（後列）美濃岡、山﨑、吉田、宮野、岩﨑、牧、清原、川原、大平、亀田
（前列）田中、平野、重松、国兼、天野

六月二十三日（土曜日）に、北九州市の小倉ステーションホテルの『祇園』で九州支部総会を開催いたしました。大学からは国際教養学部の重松学部長と吉田法人事務局次長、校友会からは平野会長と美濃岡常務理事が参加下さいました。

今年の総会は、年度末の二月から六月に変更して参加者の増加をはかりましたが、決算総会の時期にあたり残念ながら参加できない方もおられ、会の日時を決める難しさを経験しました。

総会は大学の現状と変化、さらには今後の方向性など、重松先生や吉田次長からお話をいただき、その後は若干遅れて？？？参加された平野会長より校友会館の話しなどがあり、懇親会となりました。九州支部総会は参加メンバーがほぼ固定しており、例年どおりの顔合わせで近況報告を行いながら、会話の糸口をみつけ話題が進んでいきました。中でも盛り上がったのは大学の話です。参加者は過ごした時代が異なりますが、自分の学生時代に合わせて話を膨らませるので、大学のイメージが異なり話しのかみ合わせが悪くなります。それに輪をかけて今は、かつての面影を見出すことが困難なくらいに変貌をとげているとのことで、最後には結局、新しい今の大学に想いを寄せながら機会があれば自分の目で見てみたい、ということに話が落ち着きました。そして来年の再会を約束して閉会となり二次会へと続きました。来年は六月の中旬、大分の予定です。

（九校会だより（平成十九年八月発行）より抜粋掲載。なお、この記事は、昨年度支部総会の報告です。）

お願い

住所あるいは住所表示の変更、勤務先の変更、ご結婚による氏名の変更などは、ハガキで校友会事務局までご連絡をお願いします。

なお、ご連絡の際、会報をお送りしている封筒の宛名の下に記載してある校友会会員番号をお書き添えください。

会員数動向

平成二十年三月一日現在の会員の動向をお知らせします。別表一のとおり、本会の会員は正会員だけで四万人を超えました。

支部は、東京、東海、中四国、九州、追手門学院にあり、別表二のとおり、卒業生は全国各地に着実に増加しています。

支部の設立！

都道府県別会員数（別表二）をご覧になり、支部あるいは分会を設立したいとお考えの際は、ご協力させていただきますので、是非、校友会事務局（電話　〇七二―六四三―六一三五）までご連絡下さい。

別表一

正会員数	四〇七二二名
物故永眠会員数	一九九名
住所不明会員数	七六一八名
住所判明会員数	三二九〇五名

別表二　都道府県別

北海道	一二二名	滋賀県	一九四〇名		
青森県	五名	京都府	三五二八名		
岩手県	二名	大阪府	一四四〇五名		
宮城県	六名	兵庫県	六一三九名		
秋田県	六名	奈良県	一七三五名		
山形県	五名	和歌山県	六七八名		
福島県	一〇名	鳥取県	二〇一名		
茨城県	一一名	島根県	一一二名		
栃木県	九名	岡山県	五一五名		
群馬県	一〇名	広島県	三七八名		
埼玉県	五七名	山口県	一四七名		
千葉県	九六名	徳島県	二四九名		
東京都	一六六名	香川県	二二九名		
神奈川県	二〇名	愛媛県	二〇〇名		
新潟県	二七名	高知県	二三四名		
富山県	九六名	福岡県	一五八名		
石川県	一四一名	佐賀県	二八名		
福井県	二〇九名	長崎県	二九名		
山梨県	四名	熊本県	二五名		
長野県	四九名	大分県	四〇名		
岐阜県	五七名	宮崎県	二三名		
静岡県	一三二名	鹿児島県	四三名		
愛知県	一九八名	沖縄県	二〇名		
三重県	二七五名	不明	六一名		

学院創立一二〇周年記念事業
総合募金のお願い

創立一二〇周年記念事業事務局

大学校友会会員の皆様方には、平素は学院(大学)の教育事業発展のためにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

■２００８年　学院創立120周年記念事業行事予定一覧表

行事	予定月日	場所
中・高キャンパス竣工式&祝賀会	2008年3月29日	中・高新校舎及び食堂
大手前中・高、学院施設竣工式&祝賀会	2008年4月26日	大手前中・高新校舎 追手門学院　大阪城スクエア
創立120周年特別連続講演会	2008年5月～	追手門学院　大阪城スクエア
創立120周年記念 第2回映画試写会協賛企画	2008年5月	大阪厚生年金会館 芸術ホール
「大阪城プロジェクト」生き物・歴史探検隊	2008年5月11日	大阪城公園、大手前中・高
創立120周年記念追手門学院文化芸術祭	2008年6月13日	大手前中・高体育館及び 追手門学院　大阪城スクエア
大学オープンキャンパス創立120周年記念事業コーナー（展示：抽選など）	(計5回実施)	大学食堂
将軍山会館竣工式&祝賀会	2008年6月28日	大学
第2回「学院の歴史と教育理念」共同研究シンポジウム開催	2008年6月28日	大学 5号館 視聴覚教室
「大阪城プロジェクト」写真展	2008年7月14日～18日 22日～25日	朝日新聞社 (アサコムホール)
「オール追手門展～幼稚園から大学院まで、追手門のすべてを一堂に～」	2008年7月18日 ～20日	毎日新聞本社 (オーバルホール)
天神祭　第5回「追手門学院奉拝船」出船	2008年7月25日	大川
第4回おうてもん教育セミナー	2008年8月～9月	追手門学院　大阪城スクエア
「大阪城プロジェクト」シンポジウム	2008年9月6日	小学校110周年記念ホール
ホームカミングデー 第4回歴史写真パネル展（大学編）	2008年11月3日	大学食堂
創立120周年記念式典	2008年11月7日	大阪城ホール
小学校キャンパス西館竣工式&祝賀会	2009年1月30日 予定	小学校他
第5回おうてもん教育セミナー	2009年2～3月	追手門学院　大阪城スクエア

創立120周年記念事業事務局
TEL.072-641-9720
FAX.072-641-9538
URL:http://www.otemon.jp/120shunen

追手門学院は本年創立一二〇周年を迎えます。創立一二〇周年記念事業としては、大学におきましては中央棟の建設並びに大教室の不足の解消とＩＴ設備の充実を目指した六号館を新築いたしました。

また、大学校友会より多額な団体募金をいただきました。その寄付金を資金にして将軍山会館（大学校友会館）の新館建設を着手し、六月には竣工式を挙行する予定です。

これらの新しい建物に付随する教育施設としてのＩＴ設備や機器備品の設置、教具の更新を図っていかねばなりません。すでに関係各位から貴重なご芳志を頂戴しておりますこと、心より御礼申し上げます。

総合募金の実績額は本年二月現在で七億二〇〇〇万円が集まりましたが、目標額の一二億円まで達成するには、皆様方の個人募金のお力添えが必要となって参ります。

そこで学院創立一二〇周年を迎えるにあたりまして、財政基盤の確立が求められており、周年事業の成功と学院(大学)のさらなる発展のために、校友会員の皆様方におかれましては昨年の九月発行の会報に同封させていただきました募金要項を再度ご覧になっていただき、寄付金へのご理解ご協力を重ねてお願いを申し上げる次第です。ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、募金要項のご請求・送付につきましては、創立一二〇周年記念事業事務局までお電話・ＦＡＸなどでご請求くださいますようお願い申し上げます。

＊　＊　＊

編集後記

恩師が亡った。春を惜んで惜春なら、人を惜めば惜人か。

惜まれる人になりたいが長生きもしたい。

げに欲は尽きぬもの、せめて人の為にと。　（潤）